

## ▼編集後記

『ゲシヒテ』第二号をお届けいたします。

創刊号は幸いにもご好評をいただきました。本号にはすでに、この一年で新たに「ドイツ現代史研究会」に入会して投稿して下さった方の論考も掲載することができました。これだけでも、『ゲシヒテ』刊行の意味があつたと喜んでおります。ただ、「ドイツ現代史研究会」創設期のメンバーのお一人である望田幸男先生によれば、雑誌の刊行というのは、一、二回は勢いで何とかなるけれど、その後がたいへんなのだそうです。第三号以降も持続的に刊行できるかどうかは、創刊号の「編集後記」にも書きましたように、ひとえに皆様方のご協力にかかっています。どうかご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

ところで、近年、翻訳も含めますとドイツ史関係の書物が毎年数多く出版されています。そのことを考えますと、本号の書評二本は少ない気がいたします。これは編集委員の努力不足のせいでもあるのですが、これからは、とくに若手の方たちの新鮮な観点からの書評を掲載していきたいと考えています。書評をしてみたいという書物がありましたら、どうかどしどしお申し出ください。(KH)

前号にひきつづき編集実務を担当しました。編集サイドの者がこんなことをいうといささか宣伝めくのですが、本誌の他にはない強みとしては、読者の多くがドイツ史の専門家であることが挙げられると思います。執筆者にとってみれば、本誌に寄稿するだけで、いちいち抜刷を送らなくても、関係者の手元に論文を届けることができるのです。とくに若手の方たちには、この特長を存分に活用していただきたいと思います。

さて、本号を受け取られてお気づきかと思いますが、表紙の写真が新しくなっています。前号はライヒスターク、本号はノイエ・ヴァツへです。今後も毎回写真を変えていきたいと思っておりますので、これぞという写真をお持ちでしたら、ぜひお寄せください。

第三号の投稿受付の締切は二〇〇九年九月末日です。どうぞよろしく願います。(DT)

## ▼編集委員

原田一美 (大阪産業大学)

高橋秀寿 (立命館大学)

服部 伸 (同志社大学)

## ▼編集実務

田野大輔 (大阪経済大学)

# ゲシヒテ

## 第2号

2009年3月31日発行

## ▼編集発行

ドイツ現代史研究会 (代表・大津留厚)

〒602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学文学部 服部伸研究室内

## ▼印刷

株式会社オーエム